

## 運命の饗宴 (1942)

TALES OF MANHATTAN

メディア 映画  
ジャンル ドラマ  
製作国 アメリカ  
色彩 B&W  
時間 118分  
初公開日 1946/08/29  
公開情報 セントラル

## 【解説】

ヌーヴェルヴァーグ以前、日本では過大評価され気味であったのは確かなデュヴィヴィエだが、だからと言って、その語り部としての才能まで貶めるにはあたらない。最もフランス的であると目されていた彼もが、他の多くの亡命フランス映画人と同じように、アメリカ時代の本作で最良の仕事を成し遂げているのは不思議なことだ。どこか彼の戦前の名作「舞踏会の手帖」を思わず、一着の礼服が主人公の、一貫性のあるオムニバスで、様々な人の手を渡る服が六話に及ぶ挿話を生む。珠に、無名作曲家の妻に買われた服が体格のいい夫に合わず、晴れの舞台で無残にも破れてからの顛末を描く第三話から、やがて修繕された服が慈善ホームに渡り、元重役のルンペンの物となってからを綴る第四話の哀感漂う語り口は見事で、名優C・ロートン（作曲家）、E・G・ロビンソン（ルンペン）の卓越した実力を知る恰好の機会ともなろう。いささか寓意めく最終話すら素晴らしく感動的な逸品だ。

## 【クレジット】

|    |  |   |
|----|--|---|
| 監督 | ジュリアン・デュヴィヴィエ  | Julien Duvivier   |
| 原作 | ベン・ヘクト<br>フェレンツ・モルナール  | Ben Hecht<br>Ferenc Molnar  |
| 脚本 | ドナルド・オグデン・スチュワート<br>サミュエル・ホッフエンスタイン<br>アラン・キャンベル<br>ラディスラス・フォードール  | Donald Ogden Stewart<br>Samuel Hoffenstein<br>Alan Campbell<br>Ladislav Fodor   |
| 撮影 | ジョセフ・ウォーカー   | Joseph Walker   |
| 音楽 | エドワード・ポール  | Edward Paul   |
| 出演 | シャルル・ボワイエ<br>リタ・ハイワース<br>ヘンリー・フォンダ<br>ジンジャー・ロジャース<br>チャールズ・ロートン<br>エドワード・G・ロビンソン<br>エセル・ウォーターズ<br>ポール・ロブソン<br>エディ・アンダーソン<br>トーマス・ミッチェル<br>シーザー・ロメロ<br>ジョージ・サンダース | Charles Boyer<br>Rita Hayworth<br>Henry Fonda<br>Ginger Rogers<br>Charles Laughton<br>Edward G. Robinson<br>Ethel Waters<br>Paul Robeson<br>Eddie Anderson<br>Thomas Mitchell<br>Cesar Romero<br>George Sanders |

エルザ・ランチェスター  
メエ・マーシュ

Elsa Lanchester  
Mae Marsh